

# 令和6年度 学校評価

## 【教育の基本方針】(尼崎市教育振興基本計画)

- 1 未来志向の教育
- 2 個の尊厳や人権の尊重
- 3 家庭・地域社会との連携(子どもの視点に立った教育)

[各校の重点取組について]

- ・子ども達がみな仲良く楽しく、安全に過ごせるように努める。 ・学習の基礎・基本の充実と個性・能力の伸長を図る。
- ・地域に親しまれ、地域とともに協働する。

### 学校評価の観点

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに、客観的なデータを踏まえた確かな学力の保証及び縦のつながりを重視した校種間の連携に努める (2) 障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となる特別支援教育の取組を充実させる (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、健全な心と身体を培い、豊かな人間性の育成を図る (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る (5) 積極的にICTを活用し、情報活用能力の育成を図る		3.2	3
取組	成果	課題と改善策	
・「よりよい授業をめざして」ハンドブックの活用とともに一人一授業の取組を進め、授業力の向上を図った。 ・朝読書、昼帯学習(計算・漢字)、週一回の放課後学習、月一回の漢字・計算検定、「学習の手引き」作成と週一回以上の自主学習、これらに全校で統一的に取り組んだ。 ・特別支援校内委員会において、特別な配慮を要する児童の情報や対応等について校内で共有を図った。 ・運動指導員の招聘やなわとび検定の実施等を通して、運動に対する意欲の向上を図った。 ・小中連携の取組の中で、合同研修会に参加した。 ・「幼保小連絡表」を作成し、近隣の幼・保育園へ配布し、接続交流連携を推進した。 ・電子黒板やデジタル教科書、学習支援ドリル等、ICTを活用した学習指導を積極的に推進した。	・各種の学力調査を分析し、結果をふまえた学力向上のための取組を検討・実施することができた。 ・全国学調の結果が改善し、国語・算数ともに初めて全国平均を超えた。 ・常学習や放課後学習の取組が定着し、児童に基礎学力を身につけさせる基盤ができてきた。 ・eライブラリを活用して学習を進めることが習慣化できつつある。 ・校内委員会における情報共有が充実し、特別な配慮を要する児童等への理解が深まった。 ・なわとび検定や長縄ジャンプ∞(エイト)への取り組みが体力づくりにつながった。 ・ランチルーム指導や「ちよこっと食育」の取組等により、児童の食育への関心が高まった。	・保護者アンケートでは、「子どもは授業がわかりやすいと言っている」という設問に対する肯定的回答が前年度比で約10ポイント下がった。校内研究の反省を踏まえた授業改善をさらに推進する。 ・あまっ子ステップ・アップ調査において、多くの学年・教科でD層が25%を超えている。調査結果をふまえ、学力向上に関する取組内容を見直す。 ・特別支援学級の児童や通級・特別支援教育支援員の対象児童について、今後も管理職を含めた学校全体で特性を理解し、支援していく。 ・体力は少しずつ伸びているものの、全国平均と比較すると低い種目が多く、意識調査でも「進んで運動する」において多くの学年で低下が見られた。今後も一層体力向上の取組を推進していく。	

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 道徳性育成の取組を促進し、多様性を受容し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もが安全・安心して過ごすことができる学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成を図る (5) 不登校にならないようにするための学校づくりを進めるとともに、不登校児童生徒の学習環境の確保や家庭への支援に努める		3.1	2
取組	成果	課題と改善策	
・年1回、保護者へ向けた道徳の授業公開を実施した。 ・児童の「いいところ見つけ」の取組を実施し、自尊感情の向上を図った。 ・学期に一回の生活アンケートを実施し、結果にもとづいて迅速に対応した。 ・月1回の生徒指導部会において児童の情報を共有した。 ・校内サポートルームを設置し、年度途中に開設日を週2回から3回に増やした。 ・市教委の生徒指導担当指導主事によるいじめに関する校内研修を実施した。 ・不登校児童等への対応として、関係機関(ほととすてっぷやフリースクール等)との連携を図った。	・人権週間での「いいところ見つけ」後、学級が温かい雰囲気になった。今後も取り組むべきである。 ・職員間で子どもたちの情報共有が活発にされている。全職員で対応する意識が生まれている。 ・児童アンケートでは、「いじめをしてはいけない雰囲気クラスにある」の肯定的回答が前年度比約10ポイント向上した。 ・校内サポートルームの設置により、短時間ながら登校することができたり、本来の教室へ復帰することができたり、といったケースが見られるようになった。 ・スクールカウンセラーによる校内研修を実施したことにより、様々な対応に関する知見を深めた。 ・児童・保護者向けの性教育講演会の実施により、性の多様性や性暴力等に関する関心が高まった。	・不登校児童数は昨年度と比較すると増加している。 ・不登校対応等を充実させるための人員の確保。 ・今後もいじめの積極的認知に努める。 ・性の多様性への理解を促す取り組みをさらに推進していく。 ・障がいのある人や外国にルーツを持つ人達の心を傷つけるような言動が子ども達の間で聞かれたことがあった。人権を守るこの大切さを一層子ども達に伝えていく。 ・キャリア教育については、いろんな職業の人から話を聞く機会をもっと増やす。 ・生徒指導事業等について、より一層、家庭との連携を密にして対応していく。	

<b>3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</b> (1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 学校と地域との連携・協働を推進し、地域とともにある学校づくりに努める		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3.0	3
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンプライアンス(非遵行為・情報管理・ハラスメント等)に関して、具体的な事業を踏まえた校内研修を概ね2ヶ月に一回実施した。</li> <li>・月曜17:30定時退勤、木曜ノー会議デー、年次休暇10日間取得・出退勤システムを活用した勤務時間の適切な管理と状況に応じた職員面談を実施した。</li> <li>・業務改善部会を設置し、学校ルールブックの改訂や校務のICT化の推進等に一層取り組んだ。</li> <li>・地域との連携・協働を一層推進していくため、コミュニティスクールを導入した。</li> <li>・地域学校協働活動コーディネーターと連携し、学期に一回、見守り活動会議を実施したり、昔遊び体験学習において地域からゲストティーチャーを招聘したりした。</li> <li>・「1. 17は忘れない」防災訓練を地域とともに計画・実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンプライアンスに関する校内研修では、ワークショップ形式を取り入れる等、講義形式だけにならないよう配慮されていた。</li> <li>・出退勤システムを活用し、時間を意識した働き方ができるようになってきた。</li> <li>・1. 17は忘れない地域防災訓練や昔遊びなど、地域の方々と協力して教育活動を進めることができた。</li> <li>・地域のボランティアやPTAの方が登下校の見守り活動をしてくださることで子どもたちの安全が守られており、登下校中の事故は0であった。</li> <li>・コミュニティスクールが導入されたことにより、「めざす学校像にある「地域に親しまれ ともに協働する学校」づくりを一層進めていくための基盤ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々にもっと協力を仰ぐ取組を積極的にしていく。</li> <li>・家庭との連携、家庭への連絡の方法・タイミング等における良い取組を校内研修等で広げていく。</li> <li>・コンプライアンスに関する校内研修は、今後も実施していく。</li> <li>・学校ルールブックを、校内で統一した対応ができるように活用していく。</li> <li>・コミュニティスクールをきっかけに、どの学年も学年に応じて地域との連携をしていけるように取り組む。</li> </ul>	

<b>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</b> (1) 安全教育的取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育的取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3.1	3
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期に一回、地区活動を実施した。</li> <li>・生活安全課を招聘し、交通安全教室を開催した。</li> <li>・学期に一回、地域の見守りボランティアの方々と会議を実施した。</li> <li>・職員対象の不審者対応訓練を実施した。</li> <li>・危機管理マニュアルの見直しを図った。</li> <li>・学期に一回、防災訓練を実施した。</li> <li>・「1. 17は忘れない」防災訓練を地域とともに計画・実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不審者情報が入ったり、帰りが遅い児童がいたりした時に、すぐに見回りを行う体制ができています。</li> <li>・地域のボランティアやPTAの方が登下校の見守り活動をしてくださることで子どもたちの安全が守られており、登下校中の事故は0であった。</li> <li>・予告なしの避難訓練は児童らにとっては緊迫感のある取組であり、今後も続けるべきである。</li> <li>・校長をはじめ多くの教職員が「命の大切さ」を毎年伝えていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校は周囲を大きな道路に囲まれており、交通安全の確保が恒常的な課題である。関連する様々な取組を今後も継続する。</li> <li>・児童だけでなく職員も含めて防災への意識をこれからも高めていく。</li> <li>・今年は、阪神・淡路大震災から30年という節目の年でもあったので、あの日のことを経験した人の生の声を子どもたちに聞かせても良かった。</li> </ul>	

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実	3.0
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>朝読書、昼帯学習(計算・漢字)、週一回の放課後学習、月一回のわかば西検定(計算・漢字)、「学習の手引き」作成と週一回以上の自主学習に全校で統一的に取り組んだ。</li> <li>体育委員会を中心として、なわとび検定や、わかば西長縄ジャンプ∞(エイト)の取組を実施した。</li> <li>保健だよりや給食だよりの配布により、保護者への啓発を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝読書や帯学習・放課後学習など、学校全体で同じ時間に同じ取り組みをすることで、学力定着に繋がった。</li> <li>わかば西検定が一層定着し、漢字・計算どちらも力がついている。</li> <li>安全に対する意識や学習の基礎基本に関しては、成果があったと感じている。</li> <li>体力は、ほぼ全ての学年で向上が見られた。</li> <li>保健だよりや給食だよりで伝えてきたことが、普段の生活で生かされている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安心、安全な学校の醸成や、児童の学力を定着させるために、職員同士お互いのスキルを伝え合う。</li> <li>地域の見守り活動の方々に対して等、授業の始めと終わりだけでなく、様々な場面でしっかりと挨拶ができるように引き続き指導する。</li> <li>どのような児童にも居場所を作り、個性を伸ばす取組を充実させる。</li> <li>D層(学力低位層)の児童の底上げを一層図る。</li> <li>黙勤清掃を徹底できていなかった。また、隅々まで清掃ができていない箇所が多くあった。</li> <li>体力は少しずつ伸びているものの、全国平均と比較すると低い種目が多く、意識調査でも「進んで運動する」において多くの学年で低下が見られた。今後も一層体力向上の取組を推進していく。</li> </ul>	

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実	2.9
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>研究テーマ「自分の思いや考えを言葉にし、相手と考えを共有する子どもの育成をめざして～みんながつながるコミュニケーション能力を育てる～」</li> <li>国語科「話す・聞く・話し合う」領域を中心とした研究を推進した。</li> <li>子どもの「話す・聞く」意欲を高める題材と学習過程の工夫に努めた。</li> <li>「学習のきまり」を教室に掲示し、学習規律とより良い生活習慣の確立を図った。</li> <li>自分から伝えたいという意欲を育む手立てのひとつとして、「自主学習ノート」の取組を進めた。</li> <li>関西大学付属初等部から講師を招聘し、校内研究に関する指導・助言をいただいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師による話し合い活動(ペアトーク・グループ学習)を意識した授業づくりに繋がっている。</li> <li>子ども達の話し合い活動が前向きになってきている。</li> <li>研究推進委員会の中で各学年の取組やその成果を交流することができた。</li> <li>話し合いの型が作成され、また学年ごとの系統表が作成された。これらをもとに来年度、研究を深めるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中で考えを出し合うことはできるが、深める所まで至っていない。深めるために、全体交流や「問い返し」を設定する。</li> <li>意見を言い放しにしてしまい、他者の意見を聞き取ることが苦手な児童もいる。授業外でのミニトーク等でスキルの向上を図る。</li> <li>授業の中で「ふりかえり」の時間をしっかりと確保することで、その時間で何を学び、どのように変容したのかを考えさせる。</li> <li>会議の精選を図る必要のある中、見通しを持って研究授業の日程等を設定する必要がある。</li> </ul>	